土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　　査　　名　砂防工事全体計画書作成業務

事　業　・　工　事　名

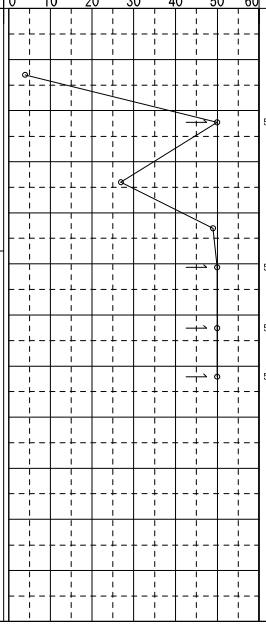
調査目的及び調査対象　砂防　構造物基礎

ボーリング名	Bor No.4-西ノ谷川-補助基準点1	調査位置	広島県安芸郡海田町	北緯	34° 21′ 08.4140″
発注機関	広島県西部建設事務所	調査期間	令和3年 6月 1日～ 令和3年 6月 2日	東経	132° 33′ 16.4921″
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者 / ボーリング責任者
孔口標高	TP 160.90m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南
総削孔長	7.00m	地盤勾配	0° 水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機：東邦DO / エンジン：ヤンマーNS12 / ポンプ：東邦BG-3C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位／測定月日
1				粘土質砂		暗褐 / 暗褐灰	rd2		GL-0.40m付近まで耕土状 細粒土分を20～30%含有する 砂は細～中砂を主体とする 径2cm以下の礫を少量混入する GL-2.15mの標準貫入試験は玉石に当る	
2	158.60	2.30								
3	157.80	3.10		玉石		淡白灰			L=30～35cmで採取する玉石 玉石間は粘土混じり砂状	
4	156.10	4.80		粘土混じり礫混じり砂		褐	rd3		径5cm以下の礫を20～40%混入する 砂は細～中砂を主体とする 細粒土分を20～30%含有する	6/18 4.75
5				花崗岩		淡褐灰			DM級岩盤 風化が進行し土砂～径5cm以下の岩片状コアで採取する 岩片状コアは指圧で土砂～細礫化する 部分的に硬質部が残存しL=10～40cmの柱状コアとなる	
6										
7	153.90	7.00								
8										
9										
10										
11										
12										

標準貫入試験

深度―N値図



N値	深度 (m)	100mm毎の打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
4	1.15	1	1	2	4/300		
	1.45						
50以上	2.15	6	44/60		50/160	160	
	2.31						
27	3.25	10	10	7	27/300		
	3.55						
49	4.15	25	15	9	49/300		
	4.45						
50以上	5.05	50			50	40	
	5.09	40			40		
50以上	6.15	11	25	14/20	50/220	220	
	6.37						
50以上	7.15	32	18/10		50/110	110	
	7.26						

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	削孔月日
				6/1
				6/2